

# クマタカと睨めっこ

2017年1月6日

林道を走行していると道路脇、杉林の床から突然猛禽が飛び出して、少し離れた枝に止まった。ノスリだろうとたかをくくる、なんとクマタカだ！

立木で視界が悪いのは我慢する、運転席の窓を台座代わりに1000<sup>ミ</sup>で鳥を探す。①こちらに背を向けているのを見つける、顔がこちらを向いている。ヤッター！

すぐ飛ぶだろうと飛び出しに備える、しかし飛び立った地点を見つめ動かない。眼光が鋭い、負けずとにらめ返す。にらめっこが35分続く。動かない！ どうやら食事を邪魔したようだ。満腹にならず未練が残る？

クマタカとは昨年12月2日、同じ付近で出会っている、その時はすぐ飛び去った。

11時59分10秒、動いた！ なんと「素囊」(そのう)が膨らんでいる、②「素囊」がはち切れんばかりだ。

鳥は食道に食べたものを一時的に貯蔵できる袋状で筋肉質の消化器官をもつ。胃にあたる「砂囊」(さのう)は鳥類のすべてが持つ一方、「素囊」は持たない種もあるという。

57秒後、少し移動して止まる、11秒後にまた飛び出した。おかげで飛び出しが二回撮れた。

林地の獲物に降りてくれることを願う。一旦、林の中に隠れたのち、林道上空に姿を見せて稜線のかなたに消えた。残念！

戻って来ないと判断し、Uターンして林の中に立ち入る。食事をしていた形跡が大、羽が散乱していた。獲物はアオサギだ。関節部分に肉がついた両足が残っていた。羽の散乱は三か所あった。二か所の写真、③④

翌朝訪れる。⑤残りの一ヶ所に両足は無かった。夕方持ち帰ったのだろうか？ アオサギ一羽を平らげても残りを持ち帰るとは満腹しなかった？ それとも獲物は残さない主義？

クマタカの繁殖は11月ごろから始まり3月頃産卵するという、巣で待つメスに届けたのだろうか？ あれこれ思いをはせる。

飛び出しは1/20のスライドショーをご覧ください。

赤の数字は写真にリンク、写真は本文にリンクしています。



①



②



③



④



⑤